

令和6年度 第4回 城北小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年2月6日（木） 14時30分から16時30分まで
- 2 開催場所 城北小学校 会議室
- 3 出席委員 岩井弘美子、川嶋 正幸、中川 勝夫、高柳 理子
中川 智博、清水 裕人、紙上 理恵、森 聖子、高田あゆみ
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 大野木龍太郎（静岡大学）、井下 俊輔（青少年の家）、
鈴木 皓介（高台協働センター）
- 6 学 校 土屋 憲司（校長）、小嶋 澄華（教頭）、太田 礎子（教務主任）
中村 朝実（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 中村 朝実

10 議長の選出

司会から、議長の選出について意見を求めたところ、川嶋委員より岩井会長を推薦する旨の発言があり、全員異議無くこれを承認した。

11 協議事項

（1）学校関係者評価

（「いじめ防止等のための基本的な方針について」含む）

- ① 本年度の教育活動の説明
- ② 学校評価を元にした改善案についての説明
- ③ 改善策についての熟議

（2）来年度の学校運営の基本方針説明

（3）学校運営協議会の自己評価

12 会議記録

司会から、委員総数9人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）学校関係者評価

（「いじめ防止等のための基本的な方針について」含む）

- ① 本年度の教育活動の説明
- ② 学校評価を元にした改善案についての説明
- ③ 改善策についての熟議

太田教務主任より説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・学校評価アンケートの、いじめについての児童の数値は低い、が、「いじめ防止基本方針」の職員対象アンケートは高いパーセントを維持している。この差が不安要素。実際子や親に伝わっているのかというと、数字は下がっている。具体的にくみ取っていかないと差が出てくる。（森委員）

→アンケート結果から一人ずつの面談をしているが、子供たちの様子も日々変化していて、その

時に切り取ったもの。学校としてベストを尽くしているが100%の回答にならないのはジレンマ。足りない部分もあると思い続けていく。(教務主任)

→アンケートの数値を100%にすることが目当てではない。安心してはいけなし、もっと工夫していかなければいけない。いじめの定義も人それぞれで難しい。(校長)

・先生方が城北小の中で悩むのではなく、もっと大きな場でのいじめ対応のやり方、伝え方など先生方が安心して学べるツールがあるといい。(森委員)

→生徒指導主任の研修がよくあり、それを先生たちへ広げている。(校長)

・学校としてアンケートもとってくれているし、学年でも話し合い対応してくれている。その中でも大きいじめはあるか？(岩井会長)

→大きい小さいと判断するのも難しいが、0ではない。(教務主任)

・相手の感じ方と自分の感じ方の違いは大きいし、学校の環境でも違う。いじめに対して親は学校(校長先生)に期待している。学校が頑張っていることが親御さんに伝わるのが大切。(中川智博委員)

・いじめアンケートで先生たちは100%が多い。このご時世、気を使って、慎重に指導してくださっているから高い。評価も誠意あるものだと実感する。100%が目標ではないので、よく達成されていると思う。(高柳委員)

・アンケートの分析から熱い思いが伝わってきて嬉しかった。同じ方向を向いて動いていると感じる。一生懸命子供たちのために動いていることが、子供たちに伝わると思う。(紙上委員)

・今年は学校が動いたから、高いレベルで評価できる。来年につなげていく。(岩井会長)

○実行委員会の5, 6年生による「5つのめあて」について発表があり、委員からは以下の感想やアドバイスがあった。

・地域でやっているイベントに積極的に参加して、いろいろな人に出て経験を増やしてほしい。せっかく作ったのでいろいろな人に会い、伝えていくことが大切かなと思う。(川嶋委員)

・大人から皆さんに作ったものを、みんなの言葉で作り直して形になり、とても良い活動をされている。先輩からの思いを引き継ぎ、やったことを次へつなげていってほしい。(清水委員)

・とても良い取り組み。大きいポスターだけではなく、小さいカードにして一人一人に配るのもいい。(紙上委員)

・5つのやさしさが子供たちの心の中に種のように入って行って、価値ある経験だと思う。これからも高めて行ってほしい。(岩井会長)

(2) 来年度の学校運営の基本方針説明

校長より説明があり、委員からは以下の発言があった。

・昔に比べると宿題が減っている。自主勉強という方向になっているのか？(高柳委員)

→静岡県が学力最下位になった時、家庭学習の在り方が話題になった。書き取り文化は静岡独特のもの。子供たちにつけさせたい力はどうか。漢字に振りすぎている部分がある。授業とリンクした宿題は効果的。子供の実態を見て工夫している。(校長)

・家庭学習で差が大きくなるのでは？やる子は伸びていくが、1人でやれない子はどうなるか心配。(高柳委員)

→自主勉強ってどういうものか、何をしてどうまとめるか、しっかり指導していかなければ差が

出るかもしれない。(校長)

- ・先生の説明が実現したらものすごい大きなことになると思うが、義務教育でできなくなる子が多くなるのでは。自主的に学ぶをやってきた子が中学に入ったら落差が大きいかも。自主的にやっても学力を評価した点を取れないと内申点にも影響する。この先の受験でバランスがとれるのか。(森委員)

→学習指導要領が変わってきている。あゆみの中にも「主体的に取り組む」が加わった。国からきているが現場は変わらずにいる。本校だけがではなく、どこもここを目指すように言われているところ。褒められて上がる自己肯定感もあるが、1つ1つ実現していったら上がる自己肯定感が大事。(校長)

- ・達成感はあるが中学に行くと評価されるところが違う。子供たちは受け止められるか。(森委員)

→中学に入り、テスト勉強のやり方が分からないとなる子は多い。自分でコーディネートする力をつけた子は困らない。自主性がつけばテスト勉強も進めやすい。(校長)

- ・自分でコーディネートできない子は？(森委員)

→学校でみんなに着けたい力なので、指導していく。(校長)

- ・自主勉のモデルケースを共有は？(紙上委員)

→していく。自主勉のやり方を先生たちがサポートしていきたい。(校長)

- ・宿題が減っている意味、理由もしつかりと親へ伝えていく方がいい。(高柳委員)

- ・主体的って本当はどういうこと？まずは、自分で決めること。すべての生活場面でできれば、人に頼らず生きていけるようになる。

「失敗できる学校」→「失敗から学べる学校」にした方がいい。ウェルビーイングを学校で使うなら、まだ知られていないから、富山県のウェルビーイング推進課で作っている、分かりやすいスライドがあるので見てみるといいかもしれない。多様性の時代、8～10%に発達障害や多動、先生の強い言葉が怖いなど、いろいろな子がいる。1人1人を理解し、学びを深めていくことが大事。(大野木さん)

- ・学校の先生が、子供たちに失敗はしたほうがいいと伝え、セーフティーネットを張って、こぼれた子たちを見落とさず、戻していくことが大事。静岡の子は主体性がない。この先こんな時代になるんだよ、だから…と説明していく。「失敗してもいいよ！先生たちが助けるから！」と伝えていく。(中川智博委員)

- ・失敗はチャレンジしないと生まれない。チャレンジすることを教えることが大切。やってみないと失敗もできない。子供たちに頑張ってもらえ！ではダメ。一緒にやろうよ！と言ってあげる大人がいてほしい。(川嶋委員)

- ・うまくいけば「自信」、うまくいなくても「経験」。嫌だったらやめてもいいよでは、続かない子が多い。(清水委員)

- ・本当の学びになる。次へステップアップできる教育になろうとしている。責任をもって、その子に合った力をつけさせてほしい。(岩井会長)

(3) 学校運営協議会の自己評価

その他報告事項等

- ① 夢育やらまいか（CS 加算分）報告
- ② 1 月～3 月の城北小サポーター活動実施報告
・学校支援コーディネーターから
- ③ 「コミスク便り 12 月号」発行について

その他連絡

次回の運営協議会は令和 7 年 4 月 2 4 日（木）14 時 30 分～16 時 00 分、城北小学校会議室で行う。